

阿南工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	日本語の表現	
科目基礎情報							
科目番号		1195501		科目区分	一般 / 選択		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科		一般教養		対象学年	5		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		高専日本語アビリティⅠ・Ⅱ（阿南高専）					
担当教員		坪井 泰士,錦織 浩文					
到達目標							
1. 社会マナー・ルール、敬語・表現ルールの基本を理解し、適切に用いて文章を作成できる。（Ⅰ） 2. 他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを整理し、深化させる手法を説明できる。（Ⅱ）							
ルーブリック							
		理想的な到達レベル(優)		標準的な到達レベル(良)		最低限の到達レベルの目安(可)	
到達目標1		社会マナー・ルール、敬語・表現ルールの基本を理解し、適切に用いて文章を即応的に作成できる。		社会マナー・ルール、敬語・表現ルールの基本を理解し、適切に用いて文章を適切に作成できる。		社会マナー・ルール、敬語・表現ルールの基本を理解し、適切に用いて文章を作成できる。	
到達目標2		他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを整理し、深化させる効果的な手法を適切に説明できる。		他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを整理し、深化させる効果的な手法を説明できる。		他者を尊重した議論を集団としてまとめ、新たな発想や視点を獲得し、自分の思いや考えを整理し、深化させる手法を説明できる。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		科学技術に関するものを含む広範囲な日本語を対象に、より高度な理解、柔軟な発想・思考、豊かな口頭表現を含む効果的なコミュニケーションや主体的な表現ができることを目的とする。					
授業の進め方・方法		LMSにより、講義VTR視聴（テキストを用いた予習・復習を含む）、レポート提出（教員による添削指導を含む）、チームプロジェクト等を実施する。 実授業は、それらの学習理解をふまえて討論、ファシリテーション、実技等により、振り返りを中心とする。 この科目は学修単位のため、事前・事後学修としてレポート（オンラインを含む）、授業VTR視聴（レポートとセット）を課す。 【授業時間30時間＋自学自習時間60時間】					
注意点		LMSの活用環境を整備しておくこと。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	阿南高専（もしくは社会）の課題の発見①（坪井）		阿南高専の課題（学習・研究環境、学生生活、地域連携・国際交流等）もしくは社会の課題を、調査やブレイン・ストーミング法により抽出できる。		
		2週	短歌・俳句（錦織）		短歌・俳句の基本を説明し、作成できる。		
		3週	阿南高専（もしくは社会）の課題の発見②（坪井）		阿南高専の課題（学習・研究環境、学生生活、地域連携・国際交流等）もしくは社会の課題を、KJ法により整理・分類できる。		
		4週	短歌・俳句（錦織）		短歌・俳句の基本を説明し、作成できる。		
		5週	阿南高専（もしくは社会）の課題の解決（坪井）		課題の確認をふまえ、妥当な解決策を具体的に説明できる。		
		6週	短歌・俳句（錦織）		短歌・俳句の基本を説明し、作成できる。		
		7週	阿南高専（もしくは社会）の課題の解決②（坪井）		課題の確認をふまえ、妥当な解決策を具体的に説明できる。		
		8週	前期中間試験		学習のまとめ		
	2ndQ	9週	人間力①（坪井）		チームで求められる分野横断的能力について、求められる行動特性を説明できる。		
		10週	人間力②（坪井）		チームで求められる分野横断的能力について、求められる行動特性を獲得するための方法を説明できる。		
		11週	活動のアクティブ化手法（坪井）		ラポール、Show-See-Speak、ペーシングほか、活動をアクティブ化させる手法について説明し、実践できる。		
		12週	敬語（錦織）		敬語の基本を説明し、運用できる。		
		13週	電話・記録（錦織）		電話対応・記録・報告の基本を説明し、運用できる。		
		14週	通信文（錦織）		通信文の基本形について説明し、作成できる。		
		15週	通信文（錦織）		通信文の基本形について説明し、作成できる。		
		16週	前期末試験答案返却		学習のまとめ		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。		3	前3,前5,前7,前8
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。		3	前3,前5,前7,前8
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。		3	前12,前13,前14,前15,前16
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。		3	前1,前5,前7

				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前1,前5,前7
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前3,前5,前7,前8,前9,前10,前11
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	前3,前5,前7,前9,前10,前11
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	前1,前3,前5,前7,前9,前10,前11
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前1,前3,前5,前7,前9,前10,前11
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	前1,前3,前5,前7,前9,前10,前11

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	75	0	15	10	0	100
基礎的能力	75	0	5	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	10	10	0	20